

商品名 ポプスカイン0.75%注150mg/20mL 医薬品基本情報

薬効	1214 キシリジン系製剤	一般名	塩酸レボブピバカイン注射液
英名	Popscaine	剤型	注射液
薬価	706.00	規格	150mg 20mL 1管
メーカー	丸石製薬	毒劇区分	(劇)

ポプスカイン0.75%注150mg/20mLの効能・効果

硬膜外麻酔

ポプスカイン0.75%注150mg/20mLの使用制限等

1. ショック状態、大量出血、注射部位又はその周辺に炎症、敗血症、類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、帝王切開、子宮頸管傍ブロック、産科手術	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 呼吸器疾患、肥満、全身状態不良、髄膜炎、中枢神経系疾患、灰白脊髄炎、脊髄に結核、脊髄に腫瘍、脊椎に結核、脊椎に腫瘍、脊髄ろう、血液凝固障害、抗凝血剤投与中、脊柱に著明な変形、腹部腫瘍、重篤な高血圧症、心血管系に著しい障害、心弁膜症、心刺激伝導障害、重篤な腎機能障害、重篤な肝機能障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

ポプスカイン0.75%注150mg/20mLの副作用等

1. ショック、徐脈、不整脈、血圧低下、呼吸抑制、チアノーゼ、意識障害、心停止、アナフィラキシーショック、振戦、痙攣、中毒症状、一過性異常感覚、持続的異常感覚、疼痛、知覚障害、運動障害、膀胱直腸障害、神経学的疾患	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. 血圧低下、悪心、嘔吐	記載場所	その他の副作用
3. 狭心症、期外収縮、頻脈、高血圧、固有心室調律、喘息、呼吸困難、低換気、低酸素症、呼吸障害、肺出血、浮動性めまい、錯感覚、麻痺、感覚障害、傾眠、昏迷、失神、振戦、運動低下、脳浮腫、脳症、便秘、下痢、便失禁、吐血、潮紅、静脈炎、末梢性虚血、総蛋白減少、乏尿、尿失禁、尿閉、尿流量減少、アルブミン尿、血尿、無尿、皮膚そう痒症、多汗症、発疹、紅斑性皮疹、水疱性皮膚炎、白血球数減少、低カリウム血症、血液量減少、発熱、激越、不安、無感情、錯乱状態、幻覚、背部痛、筋痙攣、筋力低下、四肢痛、高ビリルビン血症、尿検査異常、処置疼痛、胸痛、注射部位疼痛、疼痛、創部分泌、偶発的針穿刺	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明

4.	徐脈、心室性期外収縮、洞性徐脈、上室性頻脈、ST低下、鼻閉、呼吸抑制、感覚鈍麻、頭痛、頭部不快感、運動機能障害、運動障害、腹痛、出血、排尿困難、膀胱膨満、悪寒、AST増加、ALT増加、 γ -GTP増加、ALP増加	記載場所	その他の副作用
		頻度	5%未満
5.	過度の血圧低下、化膿性髄膜炎症状、敗血症性髄膜炎、ショック、中毒症状、全脊椎麻酔、徐脈、呼吸抑制、神経障害、血腫、脊髄障害、脊髄損傷、神経根損傷、血圧低下、心停止、不整脈、心循環停止、死亡、中毒、中枢神経系症状、心血管系症状、蘇生術困難、視覚障害、聴覚障害、口周囲知覚麻痺、眩暈、ふらつき、不安、刺痛感、感覚異常、構音障害、筋硬直、攣縮、意識消失、全身痙攣、低酸素血症、高炭酸ガス血症、呼吸停止、心筋収縮力低下、心拍出量低下、刺激伝導系抑制、心室性頻脈、心室細動、心室性不整脈、循環虚脱、振戦、痙攣、持続性眼筋運動障害	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明

ポプスカイン0.75%注150mg/20mLの相互作用

1. 薬剤名等：催眠鎮静剤

発現事象	鎮静・麻酔・鎮痛作用が増強、血圧低下、呼吸数低下、心拍数低下	投与条件	-
理由・原因	相互に作用（鎮静・麻酔・鎮痛作用、循環動態への作用）を増強	指示	慎重投与

2. 薬剤名等：全身麻酔剤

発現事象	鎮静・麻酔・鎮痛作用が増強、血圧低下、呼吸数低下、心拍数低下	投与条件	-
理由・原因	相互に作用（鎮静・麻酔・鎮痛作用、循環動態への作用）を増強	指示	慎重投与

3. 薬剤名等：抗凝血剤投与中

発現事象	血腫、脊髄障害	投与条件	-
理由・原因	出血しやすい	指示	注意

4. 薬剤名等：CYP3A4阻害剤

発現事象	本剤の血中濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	本剤の代謝には主にCYP3A4及びCYP1A2が関与しているため、CYP3A4及びCYP1A2阻害剤との併用で、本剤の代謝が阻害	指示	注意

5. 薬剤名等：CYP1A2阻害剤

発現事象	本剤の血中濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	本剤の代謝には主にCYP3A4及びCYP1A2が関与しているため、CYP3A4及びCYP1A2阻害剤との併用で、本剤の代謝が阻害	指示	注意

6. 薬剤名等：ジゴキシン

発現事象	レボプピバカインによる中毒症状	投与条件	-
理由・原因	ラットを用いた研究で、ジゴキシンとの併用により、本剤のラセミ体であるプピバカインの中毒閾値が低下	指示	注意

7. 薬剤名等：アミド型局所麻酔剤

発現事象	中毒症状が相加的に起こる	投与条件	-
理由・原因	他の局所麻酔剤との併用で中毒症状が相加的に起こる	指示	注意

8. 薬剤名等：クラス3抗不整脈剤

発現事象	心機能抑制作用が増強	投与条件	-
理由・原因	作用が増強	指示	注意

9. 薬剤名等：催眠鎮静剤

発現事象	鎮静効果が相加的に増強	投与条件	抜管後に他の鎮静剤、鎮痛剤などと併用
理由・原因	相互に作用（鎮静・麻酔・鎮痛作用、循環動態への作用）を増強	指示	注意

10. 薬剤名等：全身麻酔剤

発現事象	鎮静効果が相加的に増強	投与条件	抜管後に他の鎮静剤、鎮痛剤などと併用
理由・原因	相互に作用（鎮静・麻酔・鎮痛作用、循環動態への作用）を増強	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』